

タイ スミラン諸島 ベストシーズン到来!



タイを代表するタイビングディステーションと言えば、東のタオ島 (WEB-LUE Vol.12にて紹介) と、西のスミラン諸島。相撲に例えるなら、この2か所が東西の横綱だ。しかも面白い事に、マレー半島を挟んで、東と西のベストシーズンがほぼ反対なために、実はタイのタイビングは、一年中どこかに潜る事ができる。そのタイの中でも、最も透明度が高く、ソフトコーラルやハードコーラルが美しく、かつ魚影も濃いポイントと3拍子そろっているのが、スミラン諸島というところとなる。この西の横綱にそろそろベストシーズンが到来する。カオラックに拠点を置くediveの協力の元、スミラン諸島の取材を行った。



スミラン諸島のソフトコーラルは健在だ。(アナタズリーフ)

Photo&Text **Takaji Ochi**
Special thanks **edive**
www.web-lue.com

タイ・スミラン諸島 ベストシーズン到来!
**Coming at the best season
Thailand, Similan Island**

Web-lue 2005. Autumn

Information Link 情報HPへジャンプ
<http://www.edivekhaolak.com/index.html>

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます |



カラフルなソフトコーラルにキンギョハナダイが群れる



(上)サンゴの根には、インド洋の固有種「モーレバタフナイフィッシュ」の群れが(左)魚群に巻かれる至福の瞬間



突如大軍団で押し寄せてきたタカサゴの群れに圧倒される

心和ませてくれる、 穏やかな砂地と美しいサンゴの根

真っ白な砂地の緩やかなスロープに点在する、カラフルなソフトコーラルとハードコーラルの根には、インディアンフレイムバスレットやヤマブキスズメダイなどのカラフルなハナダイやスズメダイたちが乱舞し、スカシテンジクダイの幼魚たちが密集して、水中景観に華やかさと活気を与えている。時折集団で現れては、群れに猛烈なアタックをかけるカスマアジたち。その瞬間に蹴散らされるスカシテンジクダイの群れは、まるでスターダストが霧散するように一瞬弾け飛ぶのだが、また何事も無かったかのように、静かな霧状に固まって穏やかに泳ぎはじめる。あの瞬間に何が起きているのかは想像がつかないが、僕は未だに実際の捕食シーンを目撃した事は無いし、写真に収めた事

もない。

午後遅く、海中が薄暗いダークブルーになってからは、さらに捕食活動が活発になり、カスマアジ、ツムブリなどの大型回遊魚がさらなるアタックをかける事がある。その激しさは、「スターウォーズ」などの映画で見た、宇宙空間で繰り広げられる戦闘のようでもある。魚たちの捕食シーンを、映画館で立体映像を3D眼鏡をはめて、自分もその戦闘のさなかに身を置いて体験しているかのように跳めながら、マスク越しの目を四方八方に走らせる。この海の魚たちの行動と透明度には「スペクタクル」という言葉が、本当に似合っているような気がする。



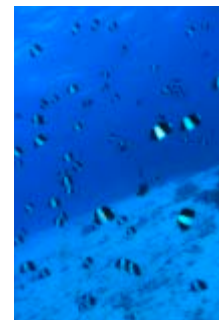
ヒレを全開にして、存在をアピールするインディアンフレイムバスレット(インド洋の固有種)のオス

Coming at the best season Thailand, Similan Island “East of Eden”

アンダマン海を代表するダイビングスポット、スミラン諸島。昨(2004)年末の津波の印象もまだ完全にはぬぐい去れていないのが実情ではあるが、すでに津波後日本からも多くのダイバーがこの海に潜りにきていた。そして、GWを最後に、この海域は雨期に突入し、しばらくの間ダイバーの入らない魚たちだけの世界に戻っていた。そのスミラン諸島が、いよいよ11月から新たなダイビングシーズンを迎える。半年近い休息の間に、海の景観はどのような落ち着きを取り戻しているのだろうか。

スミラン諸島のポイントは、先に書いたような、緩やかな砂地のスロープにカラフルなソフトコーラルやハードコーラルの根が点在する癒し系のポイントと、まるで海底遺跡さながらの奇岩からなる地形ポイントに大別できる。前者の代表的なポイントはアナタズリーフやイーストオブエデン。津波の被害もまったく見られず、美しくカラフルな水中景観は、何度訪れても心を和ませてくれる。

半年間の休息後の新たなベストシーズン



(右上)ハードコーラルにもアカヒメジなどのカラフルな魚たちが群れて彩りを添えている (左上)スミランのNo8アイランドにあるバランシングロックは、山頂まで登る事ができる (左)カラフルなソフトコーラルの中にあるカラフルな魚たち。スミランを象徴するカラフルさ (左)砂地で乱舞していたのは、ブラックピラミッドバタフライフィッシュ。これもインド洋の固有種だ

タイ・スミラン諸島 ベストシーズン到来!



石切り場から切り出されたような岩が散乱している



岩と岩に挟まれた水路のような地形も見られる



簡単に切断された岩が並ぶ。自然にできたにせよ、海中でこのような状況が可能なのだろうか

海底遺跡を連想させる奇岩ポイントの数々

後者の代表は何と言ってもシャークフィンリーフ。南北にのびた岩石の隠れ根は数キロにおよび、ところどころでまるで人工物かのような様相を見せてくれる。それは水路であったり、石切り場から四角く削り出された巨大な石だったり、階段のようでもあり、モアイ像のようであったりもする。2004年11月、BS-Iの正月特番「沈んだ大陸スングランドに行く」の水中ロケのために、このスマラン諸島の奇岩ポイントを潜りまくった。スングランドとは氷河期時代に、今より海の水位が低かったためにインドからマレー半島にかけて、実存していたと考えられている大陸の呼称だ。

通常では見る事のない奇妙な水中景観は、人によって考え方も違うだろうが、個人的には、太古の昔この海域がまだ陸に存在していた頃の人々の生活を空想しながら潜る事が何よりも面白かった。シャークフィ

ンリーフだけでなく、それに続く、ポルダーシティー、小さな砦のような印象を受けるディープ6、エレファントヘッドロック、巨大なドルメンのようなものが存在するクリスマスポイント。それに、海中環境保護のため5年以上クローズされていて、現在はスマランの公園管理事務所の許可無しには潜れない、ファンタジーリッジなどにも潜る事ができた事は貴重な体験だった。その時に現地で撮影協力をしてくれたのもediveのスタッフたちだった。

自分も半信半疑なまま、テレビ局からの「スマランの地形が、もしかしたら太古に沈んだ海底遺跡かもしれない」という問いかけに、現地の何社かのダイビングサービスに質問のメールを送り協力を依頼した。ほとんどのサービスから乗り気の無い返事を受けた中で、それが本当かどうかは別にして、「面白そう」と協力を

一手に引き受けてくれたのがediveだった。僕は、そういうちょっとした遊び心と好奇心も、ダイビングをする上では必要と考えていた。当初、彼らの性格だと、真っ先にバカにされそうな内容だと思っていたのに、いざ現地に着いてみると、「ここは、こんな形の奇妙な岩がある、あそこには階段状の地形がある」などなど、楽しそうに海底地形の話始めた事にこちらが呆れてしまった程だった。

何はともあれ、彼らの遊び心と好奇心のおかげで取材は成功し、当初タイ以外にもインド、ソロモン、日本、フィリピンなど様々な場所が舞台になっていた4時間番組の中のほん数分の予定だったものが、何とこのスマランがメインのストーリーとして使われていたのだった。

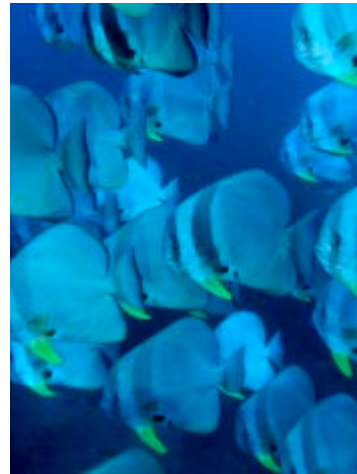
Coming at the best season
Thailand, Similan Island
“Shark fin Reef”

タイ・スマラン諸島「ベストシーズ」に参来!

 **Information Link**  情報HPへジャンプ
<http://www.edivekhaolak.com/cruise.html>



レバドシャークは頻繁に目撃する



(左上)カスマアジの激しい捕食シーンは必見だ (左)コボンのツインピークスの根の上に群れているナンヨウツバメウオ (右上)雲海のように群れるスカシテンジクダイも面白い



マンタやジンベエなどの大物の遭遇も期待できる

大物遭遇の期待が膨らむ、コボン、コタチャイ、リチュエーロック

スマラン諸島からスリン諸島までの間に点在するコボン、コタチャイ、リチュエーロックもやはり岩がちのポイント。ここでは、ジンベエザメやマンタなどの大物遭遇が期待できる。大物出現率もその年によってまちまちなので、「絶対会える」という保証は無いのだが、いかにも大物が出てきそうな海中景観、魚影の濃さ、強烈な潮の流れなどなど、正面からいつジンベエやマンタが出現するかと目を凝らし、ドキドキしながらのダイビングもまた楽しい。

そんな超大物が出なくても、ロウニンアジ、カスマ

アジ、ギンガメアジ、バラクーダ、クマザサハナムロ、ツバメウオ、ツムブリなどなど、多くの回遊魚系の群れが堪能できて、飽きる事はないし、マクロ生物も豊富だ。特にリチュエーロックなどは、マクロウォッチングにも適した環境なので、ワイドもマクロも楽しみたいと言う人には、その選択で多いに悩まされる。

取材で訪れた時には、特にコタチャイのサンゴの根を覆い尽くすようにスカシテンジクダイの幼魚が群れていたのは圧巻だった。まるで群れそのものが一つの生命体であるかのよううごめく様子は、見ていて

Coming at the best season Thailand, Similan Island “Koh Bon, Koh tachai, Richelieu Rock”

ちょっと不気味でもあるが、悪戯心が働いて、ついその群れをかきわけて泳いでみたくなる。こちらがにじり寄ると、少しずつ離れていくし、ダッシュで接近するとスパッと弾けたように群れが分裂し、魚たちが綺麗に右から左へと流れる。そんな楽しみ方をしていると、海中環境のマナーに厳しいファラン(欧米人)ガイドに見つかったら、叱られそうだけど。

タイ・スマラン諸島 ベストシーズン到来!

 Information Link <http://www.edivekhaolak.com/similan.html>  情報HPへジャンプ



(左上)リチュリューロックの最浅部に群れるマブタシマアジ (右上)ギンガメアジは、リチュリューでは中層部に群れていることが多い
(左下)バラクーダは、透明度の悪い最深部にいることが多い (右下)レッドサドルバックアネモネフィッシュなどのマクロも豊富

Coming at the best season
Thailand, Similan Island
"Koh Bon, Koh tachai,
Richelieu Rock"

タイ・スマラン諸島 ベストシーズ"ン到来!

 Information Link  情報HPへジャンプ
<http://www.edivekhaolak.com/cruise.html>

Coming at the best season
Thailand, Similan Island
“Surin”

新ポイント開拓中、 スリン諸島

ediveがスミラン諸島の他に力を入れているのが、同諸島よりさらに北に位置するスリン諸島でのダイビング。特にトリンラ島周辺の浅瀬に群生するサンゴの大群落、トリンラリーフは、一面サンゴの草原といった感じで足の踏み場も無い。浅いために太陽光が燦々と降り注ぎ、多くの魚たちが群れなしてその上を泳ぎ回る姿に、多くのダイバーが安らぎを感じることだろう。また、サンゴのリーフからスロープを降りた下にある砂地には、メタリックシュリンゴビー、ブラックシ

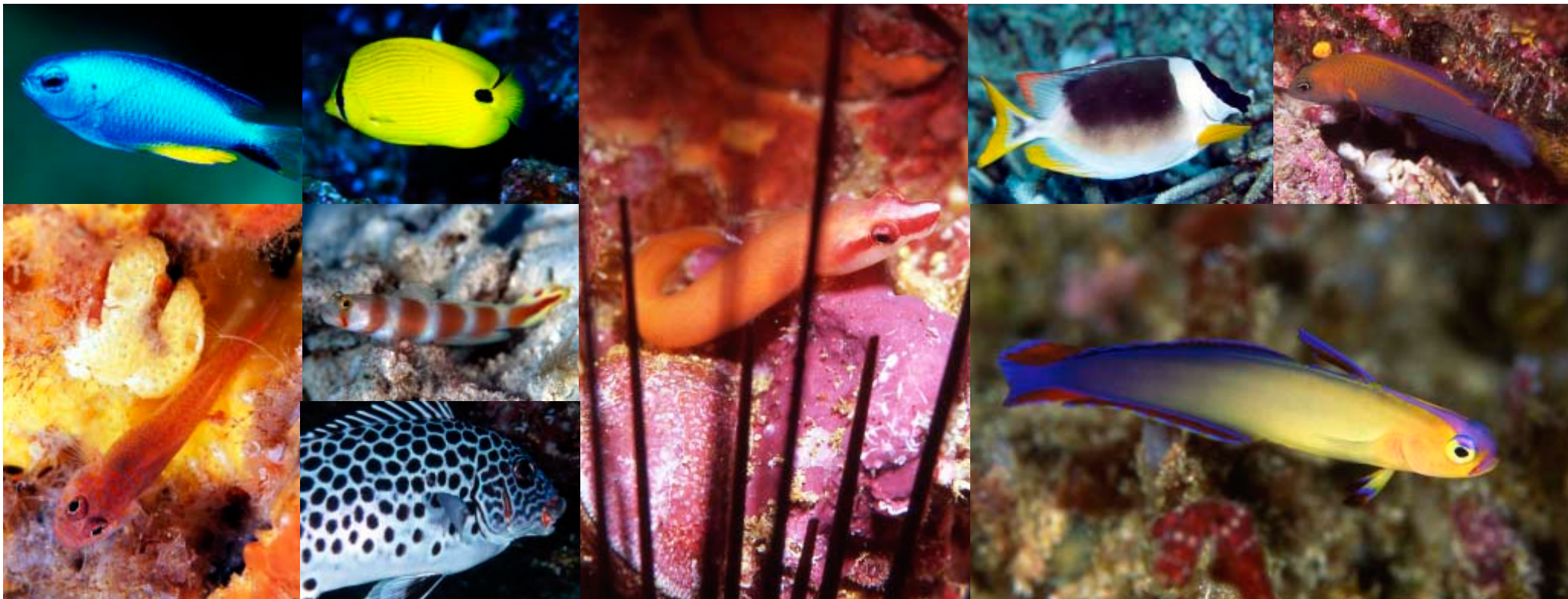
ュリンゴビー、オーロラパートナーゴビー、オニハゼの一種など様々なハゼが多く生息している。この周辺には、以前、ediveのスタッフが「フラッシャー畑」と呼んでいた、マッコスカーズグラスの一大コロニーがあって、若いオスが群がって一斉にフラッシングするシーンなどが観察できていたのだが、残念な事に津波の影響でコロニーが損失してしまった。しかし、津波後のリサーチで、また新たに「新フラッシャー畑」を発見した。一斉にフラッシングするシーンを撮影するの

は難しいが、不可能では無い。あくまで時間が許せばの話だが、その貴重なシーンの撮影に是非チャレンジして欲しい。

スリン諸島は、多くのサービスが滞り慣れているスミラン諸島と違って、まだまだポイント開拓の余地が多く残された海でもある。今後のediveのさらなるポイント開拓に期待したい。

スリン諸島、トリンラリーフに群れるアカククリの群れ

タイ・スミラン諸島 ベストシーズン到来!



(写真上段左から順に)アンダマンダムゼル/アンダマンバタフライフィッシュ/可愛いアンダマンウバウオ/アンダマンラビットフィッシュ/アンダマンドティーバック
 (写真下段左から順に)未確認のベニハゼも多い/オーロラパートナーゴビーはインド洋の固有種/アンダマンスイートリップス/他の地域とは少し色味の違うアケボノハゼ

Coming at the best season
Thailand, Similan Island
“Endemic species of Andaman sea”

アンダマン海の 固有種



アンダマンでは珍しいインディアンバンナーフィッシュの群れ。スミランにて

スミラン、スリン諸島には、インド洋の固有種だけでなく、アンダマン海にしか生息しない固有種も頻繁に見る事ができる。代表的なのはアンダマンスイートリップス(コショウダイ)。岩陰にムスジコショウダイたちと一緒にぼ～としている事が多い。観察もしやすいし、撮影も簡単だ。

アンダマンダムゼル(スズメダイ)は、他のスズメダイたちに混じって、1匹だけで泳いでいる事が多かった。最初は区別がつかないのだが、良く見ていると、そのブルーメタリックなボディの美しさから、他のスズメダイたちとは別格な印象を受ける。

アンダマンドティーバック(メギス)は、地味ながら固有種なので良くガイドで紹介される。はっきり言って、あまり魚に興味の無い人にはピンとこない魚だが、まあこれもアンダマン海に固有種なので、是非一度は見て帰りたい。印象としては、ミクロネシアに生息しているマーシャルアイランドティーバックと体色が似ている。個人的に見ただけでは、何が違うのかさっぱり区別がつかない。でも沢山いるので探しやすい。

アンダマンバタフライフィッシュ(チョウチョウウオ)は、日本にもいるスミツキトノサマダイの墨無しバージョン。これも頻繁に目にする種。夜になると、こ

の墨が出て来るのを観察できる。

アンダマンラビットフィッシュ(アイゴ)は、今まで紹介した中では個人的には一番目撃回数が少ない。必ず見られたポイントは、スリン諸島のトリンラリーフ。水深の浅いサンゴ畑をペアで泳ぐ姿は微笑ましい。

そして最後に、一番お勧めなのが、アンダマンウバウオ。これはリチュエーロックの壁の間にいるガンガゼの側でうろちょろしている事が多かった。動きが可愛いし、正面顔も愛嬌があって、面白い。時間をかける余裕があれば、是非正面顔の写真も狙って欲しい。

タイ・スミラン諸島「ベストシーズ」に到来!

Information Link <http://www.edivekhaolak.com/index.html> 情報HPへジャンプ



ちょっぴりお祝いには、写真撮りたげん、撮影するのには本格的なカメラで祝福してくれる



手ごろサイズで、清潔感のある18人乗りのオレンジブルー号。

(上右)透明度の高い海での海洋実習でストレスも少ない (上中)いつでもインストラクターに相談できるのが、クルーズのメリット (上左)船上ではちょっとしたCカード取得記念パーティーも開かれる。インストラクターのエミちゃんと

ediveのダイビングクルーズでCカードをゲットしよう!

ediveでは、通常のダイビングクルーズに乗船してオープンウォーターライセンスの取得コースを開催している。もちろん、ファンダイバーとは潜るポイントは異なるが、スマラン諸島の美しい砂地ポイントで海洋実習ができて、船に戻ってからは先輩ダイバーたちからの面白いダイビング体験談なんかも聞ける。ネックは船酔いくらいだが、まあ、これもダイバーになるための一つの試練。

講習も、講習経験豊富なインストラクターが親切かつ丁寧、そしてあますところなくしっかり教えてくれるので、機材を付けて海に潜る事への不安感もすぐに解消される。

今回乗船して講習を受けた川口絵理子さんも、初日は船酔いに悩まれたけど、後はスムーズに、講習も進行し、ファンダイビングとアドバンス講習の両方を

目的に乗船していた彼氏の小松健一さんと一緒に、クルーズ最終日にはファンダイビングを満喫していた。

クルーズに乗船しているため、講習期間中、常にインストラクターが側にいるので、心配事や質問なども気軽に話す事ができるのもメリット。取得後、最終日には、先輩ダイバーの前で、正式なファンダイバーになれた事を祝して表彰式と副賞のプレゼントがあり、ダイバーとして迎え入れてくれる。

Cカード取得後、一緒に潜りに行く相手がなかなか見つからない人も、船上で先輩ダイバーと仲良くなっておけば、もしかしたら、その後のダイビングライフのサポートをしてくれる人も出て来るかもしれない。

短期間で効率良く講習が受けれて、すぐに先輩ダイバーたちと同じ海でファンダイブも体験できるし、先輩ダイバーと仲良くなる機会もある。講習しながらスマラン諸島の美しい砂地の海底や、綺麗なサンゴ、さまざまなトロピカルフィッシュを堪能できるだけでなく、もしかしたら、講習中にジンベエザメやマンタに遭遇!なんてラッキーな経験も夢では無い。



ediveのスタッフと、ゲストの集合写真



クルーズでCカードを取得した川口絵理子さんとアドバンスを取得した小松健一さんのカッパル

Coming at the best season
Thailand, Similan Island
"edive"

タイ・スマラン諸島「ベストシーズ」に参来!

2005年、カオラックで 営業を再開するedive

昨(2004)年末の津波の記憶は未だに新しい。しかし、スマラン諸島への玄関口となるプーケットの街は、すでに数カ月の中には、その影も見当たらない程に復興を遂げていた。そして、もう一つの玄関口となるタブラム湾のあるカオラックも、徐々に回復の兆しを見せていた。そのカオラックに拠点を置くedive。津波以降、昨シーズンはプーケットに拠点を移して、スマラン諸島へのクルーズを行っていたが、今シーズンからはカオラックに戻り、ゲストの受け入れを再開する。



編者兼編集 ediveスタッフたち

ゲストの皆さんに聞きました！



要 奈加子さん

2001年に、スマランのデイトリップでediveで初めてお世話になりました。2回目からはクルーズに乗船しています。一度気に入ると何回も同じ海にリピートしてしまうのですが、いくら海が良くても、スタッフが良くないとリピートする気にならないですね。海より人につくっていくのか。だからediveを知ってから、毎年何回もリピートしています。



大澤 肇さん

ediveはHPが充実していて、予約状況とかもはっきり把握できるから良いね。知りたい情報がすぐに見られるし。スタッフがノーテンキで気楽な所が良い。日本から来たゲストに楽しんでもらおうという雰囲気が見られる。ブリーフィングで沢山の図鑑や写真を使って、魚の紹介とかしてくれて、内容が充実していると思う。



大場 貴之さん

スタッフが親切だし、ただ彼らの行いを見ただけで楽しいですね。ediveのクルーズは初めて。というか、タイが初めてだったのですが、津波の被害はさっぱりわかりませんでした。



下田 知賀子さん

スタッフが皆友達みたいな感じで接してくれるのも好きだし、それでいてしっかりサービスもしてくれる。彼らと一緒にいると気楽なんですよ。でも、海への思いや意気込み、情熱もしっかり持っているし。これからもリピートしていきたいショップです。

edive Staff Voice



高見沢 昇治

タイの海に潜り始めて15年。タンク本数9000本以上。アンダマン海のフィッシュウォッチングをリードし続けるediveの頼れるボス！

はっきり言ってこの海は凄と思う。これだけ多くのダイバーが入ってるのに15年前とほとんどその姿は変わっていない。豊富な表情を持つダイビングポイントの中でもリチュエローックのような魚影の濃いとこってそうそう無いんじゃないかな～？

個人的に好きなのは真っ白な砂地に色鮮やかなソフトコーラルをびっしりと付けた根が点在するシミラン諸島のWallやAnita's Reef。龍宮城のような美しさに心が癒されます。



東中川 新一

PADI MSDTインストラクター。タイフードにはまり、タイの女性にはまり(?)、タイのダイビングにはまり、タイに来て早や14年。日本語教師からの転進、健康に気遣う40過ぎのダイビングガイドインストラクター

これほど、バラエティーに富んだ海は世界中どこを探してもそうあるものではないのでは？ダイナミックな巨岩が転がるポイントがあるかと思うと、真っ白な砂地と所狭しと生き生きと成長しているサンゴ礁。巨大バラクーダーやギンガメの群れ、何千、何万と言うフエジラーの群れに突っ込むカスミアジやイソマグロ、そしてマンタ、ジンベエザメ！！視点をマクロに変えると、アケボノハゼ、ヒレナガネジリンボウ、スターリードラゴネットなどの可愛い小物たち、そして、トマトアネモネフィッシュやアンダマンフォックスフェイスなどの固有種。ダイビングの醍醐味と言うのを思う存分楽しめる海です。



平川 恭

PADI MSDTインストラクター。「ダイビングはワイドで勝負！ゴルフは刻み…。ナイトダイブで綺麗なエビカニ類と遊ばせろ！『飲む・打つ・買う』が永遠のポリシー！！！」

スマランらしい綺麗なポイントもいろいろ、やっぱり男はダイナミックに行きたいもの。そんな貴方に「シャークフィンリーフ」。一見、遺跡のような男らしい豪快な地形にきっとご満足いただけるはず。時間帯によって巨岩や奇岩の表情も刻々と変わり、飽きることはないでしょう。ちょっと流れることはあるけれど、もちろん魚影も濃く、個人的にも大好きなポイントです。

タイ・スマラン諸島「ベストシーズン」到来！

Information Link <http://www.edivekhaolak.com/staff5.html> 情報HPへジャンプ